

NO.184

全 友

1 / 48



財団法人 全日本仏教会

新年お芽出とつ御座居ます

変って変らぬ

全日本仏教会会長 佐藤泰舜



昭和四十八癸丑の年を迎え、御同慶の至りです。歳
 新たまると共に、人々の心も新たまって晴れ晴れとし
 た気持ちになり、それぞれの希望や目標に向って精進努
 力の決意を新たにすることであろう。それが各方面に
 実現されて次ぎ次ぎと新しい物が出来、また新しい
 い事件が生まれてくる。それが良い物であろうと、良く
 ないことであろうと、非常な早さで次ぎ次ぎと転回し
 て、目まぐるしい変化が超スピードでなされておる。

特に終戦後の社会生活において、全たく正反対な物
 に急激な変化を示しており、是非善悪の判断や批評も
 いたしかねるいとまもない程である。昨是今非、定ま

りなき変化の連続であり、家庭の仕付けも、社会の教
 育も出来難い常態である。それが文化の現状であり、
 文明の向上であると決めこんでおる人が少なくないよ
 うである。光陰は矢よりも早しといわれてきたが、生
 活は光りよりも早いテンポで変わり行くと申してよかろ
 う。しかしながら、どの様に変わり行く社会生活を始め
 世界万般のことが、少しも変わらなくて永遠に一貫して
 おるものがあることをみのがしてはならぬ。変化が早
 ければ早い程変化しないものが確立していなければ変
 化が順当に進められずに、破壊となり、断絶となって
 進歩もなく発達もなく、平和も、幸福も、隆昌もなく
 なって、人はただノイローゼを増すばかりであろう。
 動いて止まぬ車には絶対に動かない心捧がある。心捧
 が動いたり、折れたりすれば、その車は動くことが出
 来ないのである。変化の度合いが早ければ早い程、変
 化しない何ものかが一段と強固になっていなければなら
 ない。それは新旧を超越し変化を乗り越えていなか
 ればならぬ。だから決して旧式とか頑迷だとかいわる
 べきものではない。現代生活はその中心生命を見失っ
 ておるように見える、だからまずもって新旧を貫ぬく
 一貫した心捧をとらえなければならぬ。

謹賀新年

財団法人

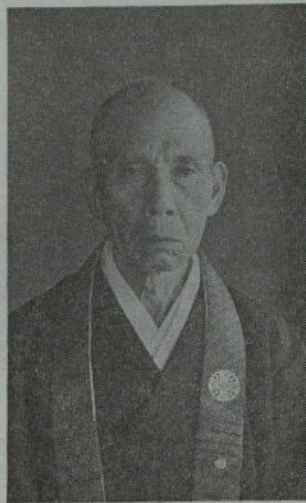
全日本仏教会

- 会長 佐藤泰舜
 副会長 梶浦逸外
 理事長 鈴木悟
 常務理事 岡野正道

- 理事 奥野覚 近藤昇 築山定誉 野村宗春 工藤義修 江崎寛堂 若山運法 栗本俊三 田中亮彦 村瀬徳明 松本明
- 立部瑞祐 南谷恵澄 村上貫文 山中浩文 後藤憲之 中藤憲之 黒山通巖 熊野白純 木野竜夫 間野宣重 蒲池敬繁
- 竹村吉右衛門 清水谷孝尚 味岡良戒 杉村拙底 朽木正義己 東川隆壽 石川義也 土田真也 中山家真 中野文門
- 久保瑛太清 船口暉子

年頭にあたって

全日本仏教会理事長 鈴木 悟



さらに顧みれば、変る物と変らない物とは真、表てをなす一体であることを覚知しなければならぬ。変って変らず、変らずに変わって行く矛盾の一体観に徹しなければ生活は滅亡し文明も文化も成立せず、幸福も繁栄ももたされないのである。この変らない物を教えるのが宗教であり、特に仏教においては天聖釈尊が最

とも明確にこれを覚りこれを示し、そしてこれを生活に実現されたのであり、各宗の祖師方もそれぞれにこれを体得していられたのである。そこにも昨年の大会に示した「全一」の真意がこもっている。
(大本山永平寺貫首)

ご協力によって微力をささげる決意を新たにいたしてまいります。

さて本年六月には、第二十一回全日本仏教徒会議を東京池上の日蓮宗大本山本門寺を会場として、東京都仏教連合会、日蓮宗ご当局ならび本門寺等のご協力を得て開催いたす運びになっておりますが、ぜひ意義ある大会をと念じております。

新しい年を迎え、各位のご健勝を祈念いたしますとともに、激動期にある内外の諸情勢に対処し、あやまりなきを期してまいりたいと念願いたしております。

昨年八月、突然星谷前理事長のご急逝に遇い、小職が理事会のご推挙をうけまして、その職任期間を理事長として、その職をけがしているわけでありますが、ご承知のように、老軀しかも宗務多忙のため種々ご迷惑をおかけいたしております。

幸い佐藤泰舜会長宛下のもとに、関係各位のご支援

さらにこのたびの大会では、とくに本会が昭和二十八年に発足して以来満二十周年に相当いたしますので記念の式典をはじめ、本会創立以来の先亡功労者の追悼法要をも併せ行ない、先人の遺徳を追慕いたしたいと願っております。

その外、国内的には税制対策をはじめ、仏教文化会議、講習会、教化担当者会議等、当面する時局対策をすすめると共に、財政面の確立、組織の強化など山積みする諸問題に対処していかなくてはなりません。

また、国外的には、各国仏教との親善交流をさらに強化するとともに、日中国交正常化後の日中仏教の提

事務総局

事務総長	麻布
事務次長	榎井
総務局長	大正
組織文化局長	信雄
国際局長	柳間
財務部長	小沢
庶務部長	和田
組織文化部長	岩脇
国際部長	黒川
他	職員
	一孝
	同樹

関西事務局

事務総長	芝原
組織部長	加納
国際部長	白幡
教化部長	山家
審議部長	後藤
総務部長	北島
他	職員
	一経
	同昭

携、日華仏教のさらに緊密化について遺憾なきようにと希っております。

かく考えますと、本会のなすべき仕事は数多くありますので、本会の使命と性格をよくご理解いただき、積極的に活動できますよう、物心両面にわたるご支援を願ってやみません。

現代は組織の時代といわれておりますが、法輪のもとに宗派を超えて一大結集し、役員はじめ事務局各位とともに、全仏躍動の年にいたしたいものであります。ここに昭和四十八年の新春を迎え、所信の一端を申し述べて年頭のご挨拶といたします。

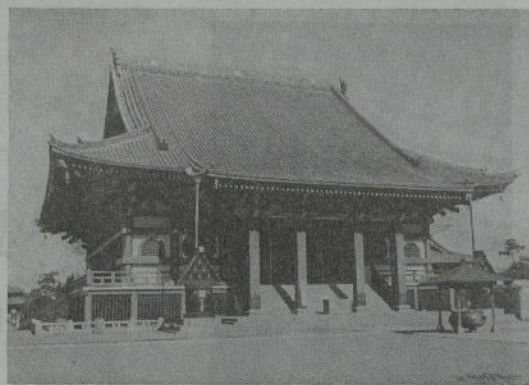
(大谷派宗務総長)

本年度全仏大会

東京池上本門寺で開催

全仏結成満二十周年記念大会と銘打ち

6月26・27日



昨年十月の青森市に於いて開催された第二十回全日本仏教徒会議青森大会では次期大会開催地の公式発表の段階までに到っていないが、全仏事務局においてはずで、日蓮宗管長金子日威殿下の御好意により大会主会場として池上本門寺を内定し、その所属する東京都仏教連合会に開催担当方を申入れていた。これにより東仏としては常務理事会を開きいろいろな角度から協議した結果、十一月十七日付文書をもって左の回答があった。

全日本仏教徒会議開催依頼につき回答昭和四十七年十一月二日全組第三二号をもって、標記御依頼の件について、本会の機関決定により左記の通り御回答申し上げます。

記

一、昭和四十八年六月、全仏新発足満十五周年記念行事を盛り込んだ形式の大会を東京で開催せられる全仏の目標御決定の上は、地元として、本会はこれに協力すると共に全一仏教運動の実質的成果を期待します。

一、全仏において、右大会開催につき機

関決定されて大会準備委員会を設けられるときは、本会からも要請に応じて委員を推せんいたします。

一、したがって、準備委員会において諸般具体的協議の際、本会の協力体制について意見交換の上、対処致したく存じます。

一、全仏局内会議で御内定の結果が、すでに巷間流布されておりますので、可及的速かに全仏の機関決定を希望します。

右回答をうけて、本会はさる十二月十四日、午前十一時より全仏常務理事会を開催し、慎重協議の結果、本年度大会を全仏結成満二十周年記念大会の名のもとに、池上本門寺において開催することを決定した。

会期は、会場等の都合により、六月二十六日(火)二十七日(水)の二日間とし、大会要項等については、準備委員会をつくり検討することとなった。準備委員としては、全仏、東仏、本門寺よりそれぞれ五名程度の推薦を得て、早急に準備委員会を発足させる。

頌春

浄土宗宗務庁

〒605京都市東山区林下町四〇〇
電話(〇七五)五四一―七二三二

浄土門主	岸 信宏
宗務総長	稲岡 覚順
総務局長	松平 智禅
教学局長	稲岡 法純
財務局長	大橋 良憲
社会局長	飯田 信弘
宗務支所長	野村 宗春
総長公室長	滝沢 教夫
浄土宗開宗八百年記念慶讃事務局	
事務局長	梶原 重道
企画部長庶務	飯田 信弘
部長事務取扱	

昭和四十八年度・第二十一回全日本仏教徒会議は、本年六月、東京池上・日蓮宗大本山本門寺を会場に開催することが決定された。
特に本年は、全仏が昭和二十八年五月に組織されてから(法人設立は昭和三十一年)ちょうど満二十周年に当たることから、全仏結成満二十周年記念大会と銘打って盛大に行なわれることになった。

仏教と国際交流の諸問題

日中国交正常化を中心として

全仏国際局長 柳 了 堅

全仏は、政治、思想等を超えていつれの国の仏教団体とも親善交流をはかることを基本方針とし対処しておりますが、将来もこれに変わりがないものと信じます。

昨年九月、田中首相の訪中によって日中両国の正常化が確立され、正式に念願の国交が開かれたのでありますが、一方において台湾の中国仏教会より、全仏はじめ主なる宗派に対し日中国交を思いとどまるよう政府へ働きかけてほしいとの申し入れを受けたのであります。

しかしその書信が田中首相訪中の直前であったが、このことにつき常務理事会に報告し、指示を仰いだのであります。現在の時点、国論からいって台湾の真情においてはよく理解し同情するとともに今後の親善交流を強化すべきであるとの結論に達したのであります。

台湾へ親書

その後、数度の局内会議、国際専門委員会を開催し討論した末、別掲の親書をおくることになり、十二月十四日の常務理事会の承認を得て親書を送った次第であります。

また、台湾より訪日希望者もあり、その受入れについても十分尽力したいと考えております。

文化革命後初の接触へ

一方中国大陸にある中国仏教協会との提携については、昨年十月の第二十回全日本仏教徒会議青森大会において、緊急議案として提出されました日中仏教の交流を促進せよとの件について、担当局で各方面に中国仏教の現況について調査しましたところ、日中友好協会正統本部を通じて、その概況を知ることが出来、北京広済寺に本部をもつ中国仏教協会（貴任者・趙朴初氏）との接触がなされることとなったほか、近く実現される在華日本人遺骨を受領するため訪問する仏教人を含めた代表団の訪中によって、文化革命によって途絶えていた両国仏教の親善交流が行なわれるものと期待しております。

さらに、ベトナムへの救援活動についても、全仏が協賛し実動しておられる救援活動委員会の方々によって、強力にすすめられていることは喜ばしいことであるとあります。

インドネシア仏教会とも昨年九月、来日の同国代表との懇談により急速にたかまり、本年二月には、ポロブドウル仏教遺跡視察団の派遣によって、仏教遺跡の復興に対する協力も深まることでありましょう。

韓国へ仏書を贈る運動

展開中

最後に、韓国における仏教図書館の設立に対する協力方については、機関決定

親書

拝啓 貴会愈々御清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、わが国が中華人民共和国と国交を樹立したことは御承知の通りです。政治面をはじめとして様々な分野に大きな変化がおこりつつあり、いわば激動の時ということが出来ま

す。

しかし私共は仏教徒として徒らに政治の動向にのみ流されるべきではないと考えます。

同じ釈尊の教を奉じ仏教の道を行ずるものはずべて人種、国籍、政治的主義主張の差を超えて、互に共感を分かちあい友好親善を図るべきであります。

特に貴仏教会と私共は長年にわたる友誼があり相互の交流がおこな

を得て、全仏が一万冊を目標として贈書運動を展開中ではありますが、各宗派が非常に関心をもたれ、それぞれ相当数の申込みをうけており、この三月までに目的達成にまでいきたいと思っておりますので、ご協力のほど切にお願い致します。

以上、最近の国際交流について申述べましたが、いろいろと難しい面や、資金等の関係で十分とは参りませんが、日本の仏教徒として最善の努力を果していくとともに、あやまりなきを期してまいりたいと念じております。

れてきました。

私共は仏教徒としての立場からの関係を今後とも維持し共に仏道興隆と仏教精神に基づく世界平和の達成に努力したいと念ずるものであります。

何卒、私共の微意を御くみとりいただきたく存じます。

貴会々員や法友の方々にもよろしく御鶴声あらんことを願ひ、あわせて貴会の御発展御隆昌を祈り上げます。

一九七二年十二月十四日

財団法人全日本仏教会

理事長 鈴木 悟

中国仏教会理事長

白聖 大師猊下

新春に語る

各都府県仏会長

全仏大会の持ち方

東京都仏教連合会会長

栗本俊道

国際的新らしい息吹き、外交に政治に経済に激動する時代はすべての流れを大きく変えようとしています。今年こそ仏教運動はこれに対処して転機展開の妙策を打ち出すべきであります。廿余年を経た全日本仏教会は、宗派、団体、地方仏教会が一つとなって仏教運動を推進する



所謂全一仏教の実体を具現するところにこの妙策が出てくるものと確信します。そして財団法

人として新発足してから満十五周年を迎えた本年であります。干支に因んで牛歩遅々たることは許さるべきではありません。

地方仏教組織活動に大きな役割を果たし、全仏組織を浸透して拡充強化をはかるための全日本仏教徒会議地方大会は、昨秋の青森大会をもって、一応日本列島南から北への全土に及んだものとなる。(厳密に言えば北海道だけが残ってはいるが)大会の持ち方方について、本年は正に流れを変える新しい志向が要請されるのであります。

全仏は法人化十五周年記念行事としてこれを持つべきであり、全仏が機関決定をすればこれが東京で開催され、地元東京都仏は全面的協力を惜しまないことはすでに決定しており、要は全仏の構想にかかっていますので、過去を反省し将来を展望して昭和四十八年の全仏大会は現実に立脚して速かに行動を開始することを切望して止みません。

第二十一回全仏大会は東京であるとの安易なマンネリ化した考えは、新年初頭のいまこれを一擲して、実質的效果を狙った東京における全仏大会を持つべきことを提言いたします。

仏教会館建設に着手

埼玉県佛教会会長

石川隆惇

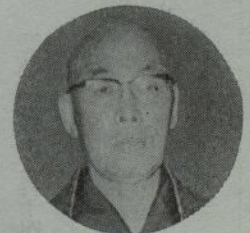
新年お目出度うございます。

全仏の役員および都道府県の仏教会長各位、私は倉持前会長の後を承けて埼玉県仏教会長の在に就いた、至って浅学非才のものであります。今後よろしく御指導御交誼のほど願ひ申し上げます。

埼玉仏教会では、倉持前会長時代より仏教会館建設の件が懸案でありましたので、今般いよいよ企画立案建設することになり、目下、正副会長、全理事総動員の活動を開始して、六十有余の支部を挙げて建設資金概算五千万円の募集に努

力中です。

然て建設が落成したら、講演会、講習会、研修会、参禅会、図書室、宗教相談



室、教化出版物の編集発行、各宗派本山参拝旅行、インド仏蹟巡拝実施等々、時代に相応した仏教運動を推進する教化センターとしての仏教会館たらしめたいと念願しているのであります。

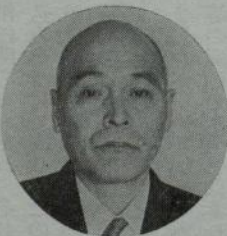
沖繩戦跡慰霊法要を

静岡県仏教会会長

田中亮三

新春のお欣びを申し上げ、各位のご多幸を祈念いたします。

県下各寺院任職の方々のご理解とご協力により、県仏教会の傘下に入り、二千三百余の御寺院が本会の事業並に運営に全面的のご支援とご協賛に預り順調に推



進して参り得ますことは、洵に感謝に堪えないところであります。

本年の事業として、従来行事である戦死病没戦災殉難各英霊の春季大慰霊法要を、来る四月初旬、静岡

市護国神社隣の慰霊標において、県下御遺族参列のもと、とり行なうはもとより、秋、十一月初旬には、沖繩県摩分仁丘上に慰霊法要を営むとともに、沖繩戦跡慰霊巡拝を県内各代表の方々と合同にて実施する予定であります。

また、終戦後二十八年となり、県仏が確乎たる基礎ができて二十五周年を記念し、県内各市、郡、町村仏教会のため貢献して下さった各寺院住職、あるいは県仏教会のためご尽力頂いた多くの方々に對し、感謝の意を表する表彰の式典を挙行したいものと考えております。

み仏のもと、みんなで手をつなごう！県内の各寺院の方々が、本心に心を一つにして、仏法興隆のため全身心を打ち込んで進むとき、すばらしい花が各地に咲き誇るものと信じ、各位のご健勝とご精進を衷心より期待してやまないものであります。

全国的檀信徒の

大同団結を

岐阜県仏教会々長

大石 好文

一、檀信徒会の強化発展と全国研修大会の開催を推進する。

現在の十万世帯を更に拡充発展させると共に横のつながりを強化するため全国檀信徒研修大会が開催されるよう各方面に働きかけ以て全国的檀信徒の大同団結を促す。

全第3種郵便物認可
仏認

二、「お経を習おう」運動を積極的に推進する。

夏休みの八月中に子供を中心とするこの会は、全県下でとりあげて四年になるが好評であるので更に参加者の増加を図り、青少年健全育成に協力する。

三、寺院所有の文化財の保護育成を図る
四、お年寄りの交通事故防止の運動を続ける。



毎年県警と共催で、ボスター、ピラ、法話等で行なっているこの運動を継続する。

五、仏教による国際友好親善を図る団体

昨年、昨年は県出身沖繩の戦病歿殉難者の慰霊法要並に台湾日本人物故者の追悼法要と併せて現地仏教会との親善友好のため、僧俗百名の団体を組織した。仏教に国境なし、世界の平和は人々の心と心の交流にあることを痛感した。この成果に鑑み本年は未定であるが仏教友好親善団体を組織したいと思っている。

祖国復帰後

初の新春を迎えて

沖繩仏教会長

田原 惟 進

百万の沖繩県民の永年の悲願が報いら



れ祖国に復帰して初の新春を迎え謹んで御慶び申し上げます。

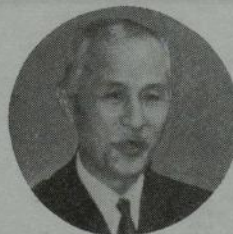
沖繩は今次

形あるものすべてが灰燼と化し然も二十有余年の永年祖国より切り離され米国の統治下におかれようやく去る五月十五日なつかしい祖国に復帰する事ができました。その間沖繩住民は戦禍の中から立ちあがり灰燼の中から力強い復興の叫び声と共に永年の苦闘、努力が続き今ようやく一応外観は復興し中でも経済面は戦前以上に発展いたしました。今回の祖国復帰に伴い、日本政府のあたれた政策によりあらゆる面に於て明るい将来に期待できる様になりました。沖繩仏教会も全寺院が焼失いたしました現在は大半復興しておるものの未だ境内地が接収されて未復興の寺院もある現状です。特に沖繩の宗教は複雑で仏教会も戦後種々不自由な状況下にあつたため十分な活動もできず甚だ残念でありましたが、幸い今回正式に全日仏に加盟する事ができ前途に明るい希望をもつ事ができました。沖繩は今次大戦により大きな犠牲をうけてきました。今後日本の同朋の温かい御指導によって私共沖繩仏教会も皆様の御期待に添う様な活動ができます事を御願ひ申し上げます。

日韓親善を推進

大阪府仏教会々長

間野 敬 重



総選挙も終り国会議員連も、今年こそしっかりとやらしてもらいたい。殊に大阪は台湾に近い、中国にも近い、韓国へは一時間掛らない、近い処にいるかも知れんが何だか世界が大きく、新しく浮き出てきた様で、大阪府仏教会は今年忙しいぞと思つてゐる。

昨年七月には本会主催で日韓仏教親善視察団を結成し渡韓した。ソウルの曹溪宗の全面的歓迎やら、円仏教との交流やら、可成りの親善の実をあげたと信じている。今年も第二回目を計画している。

また、年頭早々に大阪府仏教徒会議も開きたい。昨年は税金対策と寺院帳簿について考究し実動した。寺院備付帳簿は殆んどの寺院に行きわたつてゐる。今年も牛の年だ。牛の様に根強く深く動く心算を以て新しい年を迎えてゐる。

第二回 各宗教化担当者会議開かる

京都興正会館で

各宗の教化に携わる責任者が一堂に会して、話し合う各宗教化担当者会議が、さる十二月七日、京都・興正会館を会場に開かれた。

当日の出席者は次の諸師であった（順不同、敬称略）。平井正倫（妙心寺派）清水谷正道（高田派）山本勝隆（西山深草派）物部大道（仏光寺派）四宮正音（孝道教団）青木法麿、谷口真祐、新井法悦

清水光明（以上妙見宗）大川定信（顯本法華宗）松岡宗幹、小原静忍、松本隆照（以上本願寺派）小田原利仁（曹洞宗）高山宥進（豊山派）松平実禅（智山派）有馬頼底、江上泰山（以上相国寺派）藤

山英雄（日蓮宗）熊谷寛、中林徳雄（大谷派）真溪義實（文化専門委員長）芝原郷首、山家忠誠、北島経昭、小泉宗和（以上全仏閣西事務局）麻布照海、新聞信雄、岩脇宏信、服部光順（以上全仏事務局）

個人の信仰を基盤とした宗門の再編成

まず十時から、藤山英雄護法運動局長から日蓮宗護法運動について基調発表があり、

「組織の上においては、まず菩提寺の護持運営に主眼をおいた各寺院の護持会を結成し、それを護法運動の一つの方針として出発した。また、宗門意識向上のため、広く横の結びつきとして護法（信徒）大会を全国的にくり開け、今年四月には全国の檀信徒の総結集大会を催すまでに発展した。

さらに護法運動の本来の姿として、家の信仰から個人の信仰へ移行すべく、各

個人に対して信仰を土台とした再教育が実施されねばならないということから、護法統一信仰というものを今年四月に発足させた。これは、信徒に統一のテキスト（信仰必携）を提供し（一部三百円、すでに二万部くらい出ている）全国的に研修会を開き、十〜十二時間のカリキュラムを受けた者に修了証および信仰証を交付している。

ただ教師側にも問題があり、教師用テキストの作成や、トップリーダー会議等教師の信仰研修も合せ実施している」と報告された。

（基調発表する藤山局長）



真言宗豊山派宗務所

賀正

文京区大塚五―四〇―八
〒112〇三（九四五）〇六三九代

管 長 鳥 居 敬 誉

宗務総長 築 山 定 誉

総務部長 浅 井 堅 教

財務部長 久 保 埜 太 清

教化部長 高 山 宥 進

教務部長 大 沢 聖 駒

弘法大師降誕千二百年記念事業

事務局長 吉 田 俊 誉

総本山長谷寺東京出張所

所 長 門 屋 大 寿

午後に入って、真宗大谷派の同明会運動について、熊谷寛参務から発表がありつづいて文化専門委員長の真溪義貫氏より、教化運動について基調講演がなされた。(別記事)。

発表後、教化問題について質疑応答あつて、熱心な討論がくり開けられた。

これからの布教伝道

—全一仏教の立場から—

全仏文化専門委員長 真 溪 義 貫

特に、藤山局長が日蓮宗渡部宗務総長からの伝言として「祖先まつりだけの形から一歩前進して、個人の信仰を基盤とした宗門の再編成を、各宗あけて協力して進めていこう」という言葉は、この会議の一層の充実、必要性を示唆したものとと思われる。

(1)

少し古い社会心理調査ではあるが、ある雑誌が日本人の日常生活における関心事項および職業に対する尊敬度について調査結果を発表したことがある。それによると(1)健康(2)平和(3)仕事(4)家庭(5)自由(6)教育(7)愛(8)富(9)名誉(10)出世(11)快樂(12)信仰となつており、尊敬度に至つては僧侶はホテルのマナージャーに次いで第十九番目である。勿論調査対象によつて答は可成異なるとは思われるが、世間一般人の日常関心事としては信仰は極めて低位であり、僧侶に対する尊敬度などは全く話にならない。報道機関などから見ても仏教に関しての記事は殆んど取り上げられないし、たまに取り上げられても僧侶のスキヤンダルか嘲笑的なものばかりである。要するに仏教界からする政治、経済社会の問題に対する発言力は皆無に等

しい。これを内部的に観察してみると、仏教界の諸教団間には勿論、仏教学界などとの間にも何等の有機的な関係もなく、群雄割拠の状態であり、教学はそれぞれ訓話的な解釈に終始し、儀式は全く伝統にあぐらをかいていて現代人にアピールする何ものも持っていない。信徒または檀家といつても、信仰のつながりを持たない所謂地縁による墓地管理委託者にすぎないものが殆んどである。寺院の多くは信仰団法の道場ではなく、観光、祈祷、葬儀の場にすぎないのが現状である。そして僧侶はこの信仰不在の寺院を私有化して自己保存の欲望を充足せしめることに腐心している。境内地無償還付の際、これをあくまで宗教目的に使用することを付帯決議しているにも拘らず、自動車のパーキングにあるいはマンションの建設に専ら企業に使用していることは緩々

問題となつているところである。しかもこのように教団もその構成員も企業化しつつあるとはいつても、その財政規模に至つては世間の中小企業にも遠く及ばない。したがつてこうした内外から分析した今日の仏教界の土壤をそのままにして置いて、新しい効果のある布教伝道などという方策は絶対にあるはずはない。しかしこのような仏教界への不信と無力さは決して教団およびこれを構成する寺院僧侶の負うべきものである。幸にして今日、仏教に対する関心は国内の知識人ばかりでなく、世界の力ある人々から深まりつつある。これからの世界の社会形成原理は仏教のなかにこそ見出すことができると呼んでいる多くの思想家や哲学者もあるくらいである。ただ仏教に深い関心を持ちながら教団への入信者が少ないといふところに根本的な問題があることを知らねばならない。

(2)

仏教教団は当初一部階級の独占物ではなかった。釈尊は出家在家を問わず、真俗一貫の道を説き、万人成仏を教えられた。それがいつの間にか出家者の独占物となつて、教団は逸脱僧の企業体に墮し一般信仰大衆はこの企業体に従属的な地位に置かれたことから遂に今日のように信仰大衆は寺院僧侶から離反しはじめ傾向を招いた。しかも現代人、特に知識人は宗教を否定することが理性的でさえあると考える者が増えていく。しかし否定の前提には批判がなければならぬ。

迎春

真言宗智山派

総本山智積院

京都市東山区東山七条
電話(〇七五)五四一―五三六一代

管 主 長 竹 村 教 智

宗務総長 田 中 隆 恵

法務部長 西 田 隆 演

教化部長 松 平 実 禅

総務部長 別 所 弘 因

教学部長 高 井 隆 秀

宗務所長 小 宮 勝 憲

ところがなせに宗教を否定するのかわい
う問題になると、実は日本人の多くは批
判する以前の無関心に留まっている。な
る程、全国どこへ行っても寺はあるし、
多くの家には仏壇もあり、親族知人の故
人には、戒名や法名がついていて、仏教
に改めて関心を持たなくとも何らかの形
で日本人は仏教的なのだと言えるかも知
れないが、さて、それでは仏教とは何か
と聞き直つて聞かれると殆んど無知であ
る。ある大臣が「他力本願」を曲解して
発言したというので問題にされたが、曲
解する者もさることながら曲解させて置
くこと自身、それは教団側に大きな責任
があるのではないか。諸行無常、諸法無
我という比較的ポピュラーの言葉でさえ
も仏教の積極的な努力主義を説いている
ものであることを何人も理解していない
このような仏教界に対する内外の実情と
無知の土壌の上に立って、果して現在試
みられている各教団の布教伝道が役に立
つのかどうか甚だ疑しいものである。

(3)

仏教といつても、印度、中国、日本そ
の他ではそれぞれ違つてゐる。特に日本
仏教の多くは中国の老大な資料を自己流
に、自派にのみ有利な解釈をしているも
の、民族の習慣や信仰と結びついて実は
甚だ非仏教的となつてゐるものなどが、
そのまま「わが仏尊し」という形で強調
されているのが実情である。しかしなが
ら、日本人のすべてに仏教の本質とは何
かということをしるしく認識させるために

は、西洋哲学との比較研究、仏教原典か
らの本格的な研究、人類の精神史の一面
としての世界的観点に立ってその普遍
的な真理としての仏教を把握し、その上
で各教団がそれぞれの特徴と位置づけを
行なわれない限り、これからの人々から顧
みられなくなるであらうことは必至であ
る。このようなことは各宗派にとつて余
り歓迎されないことだろうが、近代的な
学問の視点から自己批判をすることは失



(講演する真溪氏左から二人目)

われらがある反面、結局、大衆から
教団が見直され、仏教の真の姿が理解さ
れて、イメージアップされることになる
のだと思う。現在、どの宗派も余りにも
多くの非仏教的な添加物で真の姿が覆わ
れてしまつてゐる。仏教全体がイメージ

アップされ、大衆の支持を得ない限り、
ある宗団だけが生き残ることはあり得な
い。ここにこそ今、全一仏教的協力によ
る土壌改良の努力が必要なのである。
キリスト教界では、ここ数年エキキエニ
ヤルムーブメント(教会一致運動)が展
開されていることを他山の石とすべきで
ある。キリスト教界では、それぞれ、か
たくなまでに固執していた非近代的なも
のの排除に努めているし「神は死んだ」
とする神学の大転回さえも強調されてい
る。したがって仏教各宗派も厳しい自己
批判によって非近代的非仏教的な部分の
一掃に勇気をもって当るべきであり、信
仰を大衆に返して教団は僧侶一体の入信
の場であり、体であり、そして三宝に帰
依する大衆の心の共同体であるという僧
伽本来の姿に再確立すべきである。した
がつて無信心、無活動な僧侶はこの際海
汰されるべきであり、信仰なき教団企業
の運営に権威を持つことを無上の誇りと
しているような宗務官僚などは打倒され
べきである。そしてすべての僧侶は菩薩行
を実践し、積極的に街頭説法に進出し、
社会の現状を熟視して人間を不幸にして
いるあらゆる問題について仏教界の総力
を挙げ、その対策に立ち向う姿勢を示す
ことが、これからの布教伝道の唯一の方
策であり、このような観点に立つて考え
ると何らの体質的改善を行なうことなく
一種の断末魔のあがきに似た今、各宗派
が展開しようとしてゐるような微温的な
新伝道も自から再検討を迫られるに違

恭賀新年

孝道教団

孝道山本仏殿

統理・大僧正

仏教哲学博士(セイロン)
名誉哲学博士(中華民国)

岡野正道

副統理・権大僧正

名誉哲学博士(中華民国)

岡野貴美子

〒221 横浜市神奈川区孝道山
○四五(43) 一一〇一

孝道教団東北別院

貫主・大僧正

岡野正道

山形市小白川町釜山

ない。そして結論として仏教一般の大衆的理解のために、全一仏教的伝道策の展開が今こそ急務であることが認識されて来ると思う。

(4)

さきに、現代の仏教界が、政治、経済、社会等に対して何の発言力も持っていないことを指摘したが、全一仏教的伝道に最も意を注ぐべきことは、これらに対する自信ある発言力の問題である。外国における教会の社会問題に対する発言力はかなり強力なものがある。このためにはまず仏教界が社会の現状、諸情報分析と処理に対する指導性の把握に充分な力を持たねばならない。人間はつねに未来を予測し、未来を考えてきた。そしてこの「問いかけ」に対して各時代の文化や宗教がそれぞれの答を工夫してきた。しかしその多くは曾ての時代は社会の進歩がまことに緩慢であったがゆえに、主として未来観は個人に対するものであり、社会一般、人類に対する未来観ではなかつた。しかるに二十世紀後半より、未来観は独自の意味を持ちはじめ、その方法も科学的観測手段が開発され、人類全体の客観的な姿が順次明かにされるにつれ未来観はこれからの人類はどうなるのかということをも科学的に問う方向に向いつつある。こうなると、過去に権威を持っていた宗教的未來観は崩壊せざるを得ない。キリスト教の如きはすでに進化論が提唱されたときから、神は死んでしまっている。キリスト教ばかりではな

い。回教もユダヤ教も所謂ソロアスター教的パターンは幕を閉じたといつてよい。そこへゆくと仏教のユニークな「未来の思想」はたしかに観念論的ではあつても、パターンそのものは現代物理学が究極的に表明しつつある宇宙像とおどろくほど相似していると科学評論家は主張していることを考えても、折角このような宝玉のような仏教の原理を現代の科学時代になぜに新しい視野に立つて解明し

ないのだろうか。科学は人類の生活を便利にはしているが、一面人類を滅亡に導く危険性も持っている。このときに当って科学を仏教にプラスさせるとともに人類にマイナスさせている科学の部分にプラスを提供することによって人間選択に誤なきを期することこそ今後の仏教伝道に全一的仏教の作業として推進しなればならぬ第一要件であると思う。

韓国仏教図書館

仏書寄贈感謝録

(順不同・敬称略)

臨濟宗向嶽寺派宗務所

「向嶽寺史」等二冊

法隆寺々務所

「日本上代文化の研究」「法隆寺論抄」等十六冊

泉涌寺

「俊弼律師」一冊

淺草寺

「天台密教の成立に関する研究」「仏教文化講座」二十四冊

天台宗務庁

「天台宗の教義」等三冊

山梨県仏教会

「瑞派仏教学」一冊

麻布照海

「現代忘れられているもの」等二十冊

国柱会

「正しい宗教のすすめ」等十三冊

真言宗豊山派宗務所

「弘法大師著作全集」「護摩の歴史的

研究」等二十七冊

小沢照福

「新修成田山史」等四冊

孝道教団

「熟益正法概論」等三十五冊

「浄土宗全書」二十三卷

真言宗智山派

「智山全書」等三十八冊

田村光祐

「哲学的思索の印度的展開」等四冊

味岡良戒

「信仰雑話」等二十四冊

合計二三五冊

おめでとう

ございます

社団法人 全日本仏教婦人連盟

会長 大谷 智子

副会長 一条 智光

副会長 岡野 貴美子

理事長 山本 スギ

事務局長 船口 暉子

事務所

〒156 東京都世田谷区桜上水四一九七
電話 (〇三) 三〇二一 一五九八

謹賀新年 昭和四十八年

<p>日蓮宗宗務院</p> <p>管長 金子日威</p> <p>宗務総長 渡部公允</p>	<p>東京都港区西麻布二丁目一三四</p> <p>曹洞宗宗務庁</p> <p>管長 佐藤泰舜</p> <p>宗務総長</p> <p>外役員一同</p>
<p>聖観音宗 金龍山 浅草寺</p> <p>管長 清水谷恭順</p> <p>宗務総長 壬生台舜</p>	<p>法華宗(本門流)</p> <p>管長 森日行</p> <p>宗務総長 福島日陽</p> <p>東京都豊島区北大塚一丁目二六―四 電話(〇三)九一〇―三五九八 四七五五</p>
<p>曹洞宗 大本山総持寺</p> <p>〒230 横浜市鶴見区鶴見一丁目一 電話(〇四五)五八一―六〇二一</p> <p>貫首 岩本勝俊</p>	<p>妙見宗宗務本庁</p> <p>大阪府豊能郡能勢町野間中四八四 電話(〇七二七)三七〇―〇二八</p>
<p>東京本願寺</p> <p>台東区西浅草一丁目一五 電話 八四三―九五一一</p> <p>住職 大谷光紹</p> <p>輪番 伊藤哲雄</p>	<p>大本山永平寺</p> <p>貫首 佐藤泰舜</p> <p>副貫首 山田靈林</p> <p>監院 宮崎文輝</p>

謹賀新年 昭和四十八年

千葉市中央区四丁目五一六
光明寺中

千葉県仏教会

会長 松田照応
理事長 熊野龍夫
主事 土持良栄

〒336浦和市高砂四丁目三二一八

財団法人埼玉県佛教会

会長 石川隆惇
副会長 大島見道
同 石塚大喜
電話(〇四八八)六一二二三八

磐田市城之崎 福王寺内

静岡県仏教会

電話磐田二一五二三八
〒四三六

会長 田中亮三
副会長 小原良碩
同 佐久間真忍

愛知県仏教会

会長 藤井香嶺
副会長 山田義雄
理事長 原浩
事務局長 村瀬良彦

新潟県仏教会

会長 土田真也
副会長 井上憲司
同 豊田琅秀
同 西塔政舜

京都府仏教会

会長 梶浦逸外
副会長 澤崎梁寿
同 渋谷有教

岡山県仏教会

会長 高峰秀海
副会長 松永大俊
同 佐々木尚範
同 華山恵光
事務所 岡山市平井 妙光寺内

財団法人 国際仏教興隆協会

名誉会長 佐藤泰舜
会長 賀屋興宣
理事長 巖谷勝雄
役員 一同
〒153目黒区中目黒五丁目一五三
祐天寺内 七一―一七六〇八

昭和48年1月1日

衆議院 一〇二名当選

全仏推薦候補

青森大会部会長 竹中修一氏トップで

旧臘十二月十日、施行された衆議院総選挙に当って、本会は一三五名の候補に推薦状を交付し、支援してきた結果、内三十三名は支援の功ならず苦杯をなめたが、他百二名の多数にのぼる有識者が当選の栄冠に輝いた。

中でも、昨年の全仏青森大会において、第二部会（檀信徒部会）の部会長として終始熱心にとめられた竹中修一氏は、青森県第一区より立候補し、新人ながら最高点で当選された。

今後は、その全員が仏教徒としての自覚の上に国政をあづかり、活躍を願うとともに、特に、人間教育、精神面における施策に真摯に取り組まれることを見守り、さらに仏教界あげて支援することが望まれる。

なお、前号記載の一七七名のほか、追加推薦者は次の八名であった。

- | | | |
|------|------|-----|
| 東京一区 | 田中栄一 | 自民前 |
| 岐阜一区 | 松野幸泰 | 自民前 |
| 〃 | 武藤喜文 | 自民前 |
| 〃 | 大野明 | 自民前 |
| 岐阜三区 | 古屋亨 | 自民前 |
| 〃 | 古屋明 | 自民前 |
| 〃 | 渡辺栄一 | 自民前 |
| 広島三区 | 宮沢喜一 | 自民前 |

宮崎一区 黒木利克 自民新

以上八名 総計一三五名

青森県仏教会

会長 東 義 寿

昨秋第二十回全日本仏教徒会議青森大会には各地より御参加御協力を賜り厚く御礼申し上げます。なお今後ともよろしく御指導御願ひ申し上げます。

川崎大師 平間寺

〒210 川崎市川崎区大師町四番四八号
電話（〇四四）二六一三四二〇

貫首 高橋 隆天

院代原 教運

執事 茂木 隆 応

総務 馬本 克 美

法務部長 原 隆 愿

信徒部長 柳下 隆 侃

板橋 宥 成

東京都江東区北砂四丁目 持宝院

新川 日 見

〒130 電話六二二一二六五二

文化専門委員長

真 溪 義 貫

東京都台東区元浅草一―一七―一六
電話 八四一―三六八三

文化専門委員

門 屋 大 寿

東京都東大和市清水 三光院

初春をお慶び申し上げます

常務理事会報告

去る十二月十四日午前十一時より、東京本願寺記念館において常務理事会が開催され、以下の議案につき審議がなされた。

(1)衆議院議員立候補者全仏推薦について

「全仏」前号にて既報の通り、加盟団体より申請のあった百三十五名の立候補者を推薦した旨報告、承認さる。

(2)全仏新年会開催について

明年一月二十五日、京都において新年懇親会を開催するはこびとなった。また、同日、新年懇親会に先立ち、宗務総長会議・常務理事会を開催したい旨報告、承認さる。

(3)昭和四十八年度全仏大会について

別記事参照

(4)昭和四十八年度全仏予算について

来年度は、全仏結成二十周年記念事業費・時局対策費及び事務費の自然増により、二百五十万円程度の支出増が見込まれる。従って、加盟宗派負担金の一割増額をお願いし、これをまかないたい旨報告。宗派の予算編成期も近いため、文書をもって、負担金の一割増を依頼することとなった。但し、実際に負担金を増額するかどうかは、次回常務理事会において審議決定することとなった。

(5)日中・日台の仏教親善について

別記事参照

当日の出席者は左記の通りである。

鈴木 悟（真宗大谷派）、若山運法、田中亮三（以上曹洞宗）、野村宗春（浄土宗）、栗本俊道（東京都仏）、山本スギ（全日仏婦）、具山宣泰（神奈川県仏）、椎谷 健（岡野正道代理 孝道教団）

ベトナム難民へ献金

東京ブディストクラブでは、さる十二月十日開催した「72チャリティ」の純益を、ベトナム難民救援委員会、パラオ本島慰霊碑建設委員会、赤城少年院、社会法人果徳学園、全日仏青などに献金した。

盛大に行なわれた

京都府仏の成道会式典

京都府仏教会（山家恵誠理事長）ではさる十二月八日、午前十時半より、臨済宗大本山妙心寺において、昭和四十七年度の釈尊成道会記念式典が厳修された。

当日、府仏の会長である妙心寺派管長梶浦逸外師導師のもとに、一山の大家五十余名の出仕により、府仏各宗関係者百余名が参列し、花園高校吹奏楽部の演奏のもとに、仏教婦人連盟、ゆりかご保育園児などによって献花、献灯、献乳、献

財団法人 日本仏教鑽仰会

理事長 中山理々

神田事務所

東京都千代田区内神田一三三十五

鎌倉ビル

〒101 電話 一五六〇四九一一

〒100 東京都新宿区大京町三十一

慈母会館

財団法人

全日本仏教尼僧法団

総裁 大宮 智栄

理事長 北川 教全

役員 一同

株式会社 千代田トラベル

織内 七郎

加藤 守雄

菊島 輝男

相川 忠重

国際専門副委員長

新美 孝道

東京都墨田区東駒形三丁目 赤門 福蔵寺

地福寺住職

天台宗埼玉仏教青年会長

鎌田 良昭

〒351 和光市白子二一八八一 電話(〇四八四)六一一〇三二 六三一一九九七

国柱会

主幹 田中 香浦

おしらせ

二月号は、年末年始事務休業のため、洵に勝手ながら休刊させていただきます。

統一ポスターで花まつりを

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日
花まつり



仏教界最大の年中行事として年々全国的に盛大に繰り広げられている花まつりを、さらに大衆に浸透せしめるために、全仏では昨年度から全国的規模で統一ポスターの普及を推進してきたが、大変好評を博し多数団体に利用頂いているの

で、本年も同ポスターを各県都市仏或は各寺院、幼稚園等に於て、広くご利用して頂くよう左記要領にて頒布します。ポスターはカラフルな荘厳味豊かなものである。
◎一枚 五十円 (二十枚以上は送料本会負担)
◎ポスター下部余白に、主催団体名、開催月日、会場等の印刷もご相談に応じます。費用は枚数に余り関係なく、およそ五千円くらいです。

茶などが行なわれたのち、読経、廻向が行なわれた。
引きつづき、表彰式、感謝状授与式が行なわれ、住職五十年以上勤続者八名に對して府知事より、同三十年以上二十五名に對して会長より、また、叙勲等社会

的に功勞のあつた五名に對し会長特別賞がそれぞれ授与された。
なお、折柄来日中の韓日仏教親善協会長・梵魚寺住持李能嘉禪師も参拝焼香した。また、全仏から新聞組織文化局長、柳国際局長も参列挨拶を行なつた。

全仏新年懇親会

二十五日・京都で

本会関係の役員諸師が一堂に會して新年を寿ぎ、さらに全仏の前進を誓う恒例の新年懇親会は、本年は京都を会場に左記のとおり開催される。
日時 一月二十五日(木) 午後四時
会場 京都・御池飯店
会費 参千五百円

事務局録事

(十二月)

- 四日 全仏、関西事務局打合せ
- 五日 「全仏」十二月号発送
- 七日 教化担当者会議開催
- 八日 成道会
- 〃 宗連理事会出席
- 十日 東京ブティストクラブ・チャリティーパーティ出席
- 十三日 局内会議
- 十四日 常務理事会
- 十五日 豊山派長谷寺晋山式出席
- 二十一日 局内会議
- 二十五日 事務納め
- 二十七日 「全仏」新年号発送

本真珠御念珠

他 ネックレス・ブローチ・リング・タイピン

養殖場 三重県志摩郡大王町船越
店舗 神奈川県逗子市逗子7丁目1-9
TEL 0468 (71) 6 2 3 1

石川真珠店

昭和四十八年一月一日発行
一月号 第一八四号

発行人 麻布照海 編集人 岩脇宏信

発行所 財団法人 全日本仏教会
東京都台東区西馬場一ノ五ノ五(東京本願寺内)